

# 時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 103 号

平成23年 1月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.jp>



こどもが  
まんなか  
PROJECT

第17回

## ピカピカの栃木県

平成二十二年十月二十三日(土)〜十月三十日(土)

今年度で十七回目を迎えた「ピカピカの栃木県」運動は、十月二十三日から三十日の一週間を基本として、県内百三十五園の幼稚園、参加者二万五千五百六十六名の親子が参加して、身近な公共施設等の清掃活動に取り組みました。昨年度は新型インフルエンザが猛威をふるい、参加園・参加者とも減少しましたが、今年度は前年度より千二百六十二名の増加となり、この運動が栃幼連の恒例事業として定着していることを感じさせました。

「いろんなゴミがあるね」、「こっちにもあるよ」、「汚いね」、「危ないものはお母さんに渡してね」、「こんなに拾ったよ」、様々な会話をしながら親子で公園清掃等に取り組み姿に、子どもたちは自分たちで清掃するという満

足感や喜びを味わうことによりボランティア意識を育み、他児の保護者と言葉を交わし心をつなぐ場にもなっています。又、地域への愛着心の芽生えにつながります。

一方、保護者もいろいろな幼児や保護者と接することにより子育ての視野が広がり、保護者同士の関りを深めることもできます。又、園の活動に役立つことを実感し、協力の気持ちが増します。

園としては、親子共働のいろいろな意義を発見することができた一週間だったと思います。各園が、この活動を通して学んだことを、次のステップの「地道に継続することの大切さ」に是非繋げていって欲しいと願っております。

(総務委員長 平野章雄)



参加園  
135園  
参加人数  
25,566名

### 各地区の取り組み

「ピカピカの栃木県」の取り組みについて、各地区から1園ずつ報告してもらった。

#### 宇都宮地区

#### 八幡台幼稚園

期日 十月二十五日(月)  
場所 浅間神社  
(年少児)

八幡台住宅街の公園(年中児)  
遊歩道(年長児)

#### 参加人数

園児 二百六十八名  
教職員 十五名



幼稚園の周辺をきれいにしようと、鉛やガムの袋、たばこの吸い殻、ビニール袋、紙くず、木切れ、落ち葉等を拾った。



園外保育やお散歩、運動会の練習でお世話になっている、近所の公園と神社、小学校周辺を、感謝の心をこめてゴミや空き缶等を拾った。

**足利地区**  
**★ 東光寺幼稚園**  
 期日 十一月二十日(土)  
 場所 篠生神社および葉鹿グラウンドおよび葉鹿小学校周辺  
 参加人数  
 園児 百十四名  
 保護者 百三名  
 その他 十八名  
 計 二百五十二名



井頭公園のフラワーロードの花壇に花を植えた。パンジーの苗は地元の高校で育苗したもの。

**芳賀地区**  
**★ にじだ幼稚園**  
 期日 十一月六日(土)  
 場所 井頭公園  
 参加人数 全園児と家族四百名



秋晴れの中、主に落ち葉拾いを園児や保護者、職員も一生懸命行った。

**栃木地区**  
**★ 平川幼稚園**  
 期日 十一月四日(木)  
 場所 つがの里  
 参加人数 園児・保護者・教職員 二百七名



雨天のため、保護者と教職員だけでの実施となった。日頃お世話になっている運動公園を、心をこめてきれいにした。

**佐野地区**  
**★ あかみ幼稚園**  
 期日 十月二十八日(木)  
 場所 佐野市運動公園  
 参加人数 保護者 百九十三名  
 教職員 十四名  
 計 二百七名



五～六人のグループに分かれ、各地区の公園、神社の落ち葉掃きやゴミ拾いを行った。

**日光地区**  
**★ 清滝幼稚園**  
 期日 十一月五日(金)  
 場所 清滝神社 中安戸住宅公園 安良沢児童公園 安良沢神社 久次良町児童公園 久次良神社 久次良  
 参加人数 園児 二十二名  
 保護者 二十二名  
 教職員 四名



園から一番近い公園の清掃を親子で行った。子どもたちは、落ち葉、お菓子の袋、レジ袋等を率先して拾っていた。

**小山地区**  
**★ 第二愛泉幼稚園**  
 期日 十月十六日(土)  
 場所 烏ヶ森公園  
 参加人数 園児三十二名  
 保護者 三十六名  
 教職員 十名  
 その他 十名  
 計 八十八名



毎年おいも掘り遠足でお世話になっているポッポ農園を、感謝の心をこめてゴミ、空き缶等を拾ってきれいにした。

**那須地区**  
**★ 黒羽幼稚園**  
 期日 十月二十七日(水)  
 場所 大田原市観光ポッポ農園  
 参加人数 全園児八十名  
 保護者 三十五名  
 教職員 十二名  
 その他 二十六名  
 計 百五十三名



秋の青空の下、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんと一緒に、公園周辺のゴミを拾った。

**塩谷地区**  
**★ すみれ幼稚園**  
 期日 十月二十九日(金)  
 場所 市宮長峰公園周辺  
 参加人数 全園児・祖父母・教職員 四百八十名

# 研修会だより

設置者・園長研修会

期 日 平成二十二年九月十四日(火)

会 場 二荒山会館(鶴の間)

参加人数 百一十二名

テーマ 「新システムの動向と私幼の課題」

～保育制度改革と幼保一体化の行方～

講師

(有)遊育代表取締役兼発行人

吉田 正幸氏

開会後、石嶋理事長より挨拶、酒井経営委員長より主旨説明があった。

吉田講師の講演では「子どもの貧困化(経済的な面だけではない)」の問題から始まり、幼稚園がいかに質の高い幼児教育ができるか、子育て支援の活動を通して豊かな環境を与え、いかに子どもの貧困化をくい止めて行けるかが重要な課題である。



本来の幼児教育の成果を上げるために、「預かり保育」や「満三歳未満児の受け入れ」を子どもの生活を視野に入れないながら考えて行かなければならない等、新システムに関する現状と今後の課題を聞くことができた。最後に参加者の関心も高く、活発な質疑応答が交わされた。

## 第2回保育テクニカル講座

期 日 平成二十二年九月十六日(木)

会 場 コンセーレ(大ホール)

参加人数 百三十四名

テーマ 「幼稚園のでんじろうになろう」

講師

まんでんキッズ指導員

須釜 正栄氏

今回「幼稚園のでんじろうになろう」ということで、五、六人のグループに分かれて野菜を使い、浮き沈みの実験をした。また、浮力の実験では、ペットボトルに水と浮沈子を入れ蓋をし、沈めたり浮かべせたりした。ペットボトルを握る力を強めたり弱めたりすることで動いていたので、圧力だけで動いているものだと思っていたが、それだけではなく、沈む時に浮沈子の空気の部分に水が入ったり出たりすることで動いていることを知ることができた。

最後の振動の実験では、回転から振動、振動から回転にする実験と、自分の手で振動させてCDや紙皿を回すという楽しい実験をした。

この研修で感じたいろいろな驚きを、子どもたちにも伝えられたらと思った。



## 第2回保育セオリー講座

期 日 平成二十二年十月十八日(月)

会 場 コンセーレ(大ホール)

参加人数 百四十九名

テーマ 「自分の性格に振り回されないで使いこなす」

講師

～ストロークと交流パターン～

NPO法人日本交流分析協会

教授 小林 雅美氏

ストローク(相手の存在を認めてする働きかけ)には「ふわふわさん」(相手が心地よく感じる働きかけ)と「チクチクさん」(相手が不快に感じる働きかけ)があることを実際にペアでやりとりすることにより直接体で感じ取ることができた。

そして、相手に多くの「ふわふわさん」を与えるとともに、自分の良いところも認め、自分自身にも「ふわふわさん」を与え「チクチクさん」を貯め込まないことが関係を改善しお互いの心を豊かにすることを学んだ。また、TPOに合わせることを学んだ。

格エネルギーを使いこなすことの有効性を学び、保育の現場でも意識して使い分けると良いと思った。



## 公開保育研究会

期 日 平成二十二年十月二十一日(木)

会 場 宇都宮大学附属幼稚園

参加人数 百一十一名

テーマ 「仲間の一員としての『私』の在り方」

～大人の意識の在り方を問う～

講師

雲行きが怪しい中、県内外から大勢の参加者を迎え本年度の公開保育研究会が開催された。

午前中の公開保育では、各クラスとも子どもたちが思い思いの場所で、それぞれに自分のしたい事を見つけては遊びに取り組み姿が見られた。

午後の部では、附属幼稚園研究担当教諭より、研究報告後、

- ① 幼稚園の生活と規範～規範って何だろっ？～
  - ② 小学校への接続～幼稚園の生活と小学校の道徳教育とのつながりとは？～
  - ③ 共同する経験～共同して遊ぶようになるための教師の役割とは？～
- の分科会に分かれ、活発な意見交換がなされた。





第26回全日本私立幼稚園連合会

設置者・園長全国研修大会

期日 十月二十五日(月)～二十六日(火)  
会場 ANAクラウンプラザホテル(神戸市)

参加人数 約六百七十名  
(うち栃幼連からは十一名)

メインテーマ

「明日に向けて私立幼稚園の振興を  
考える」

〈二十五日(月)〉

記念講演「子どもと自然」

講師

兵庫県立人と自然の博物館名誉館長・  
京都大学名誉教授 河合 雅雄氏

● 鼎談「幼保一体化の展望」

講師

衆議院議員・衆議院内閣委員会筆頭  
理事、民主党子ども・男女共同参画  
調査会事務局長 泉 健太氏  
OECD教育局教育訓練政策課アナ  
リスト 田熊 美保氏  
(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機  
構理事長 田中 雅道氏

〈二十六日(火)〉

● 研究講座(パネルディスカッション形  
式、参加者が一講座選択)

『教育』『幼児期の学びについて考える』  
『振興』『OECDの視点から見た幼児  
一体化と五歳児  
の発達課題』

『経営』『法改正  
に伴うポイント  
ならびに人材確  
保の必要性』

『認定子ども園』

『認定こども園  
の現状と課題』



第3回保育テクニカル講座

期日 平成二十二年十一月五日(金)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加人数 百四十二名

講師

ナレーター・朗読家 坂本 裕功氏

Xビデ  
オ

読み聞かせに大切な事は、リ  
ズムや声の強弱だけでなく、自  
分自身をリラックスさせる事も大切だと  
いうことを学んだ。

また、実際に体  
をほぐし合ったり  
発声練習をしたり  
と、読み聞かせを  
する上での準備が  
どれだけ大切かを  
この研修を通して  
知ることができた。



第24回全日本私立幼稚園連合会

関東地区代表者協議会群馬大会

期日 平成二十二年十一月十一日

会場 ホテルメトロポリタン高崎

参加人数 九十七名(栃木県からは栃  
幼連正副理事長・常任理事  
・事務局長の十名と県経営  
管理部文書学事課村上順一  
副主幹が参加)

テーマ

「私立幼稚園の生き残り  
を  
かけて」～私立幼稚園の  
起死回生の策を模索～

● 研修Ⅰ 「夢と人生」

講師 元ソフトボール日本代表監督  
宇津木妙子氏

● 研修Ⅱ① 「地域主権改革の行方と私  
立幼稚園」

講師 日本教育再生機構理事長・  
高崎経済大学教授 八木 秀次氏

● 研修Ⅱ② 「組織の連携と研修体制の在  
り方、その可能性を探る」

～地域や関係機関との連携～  
(パネルディスカッション)

コーディネーター  
群馬県私立幼稚園協会研究部長  
柳 晋氏

パネラー  
前群馬県幼児教育センター長 塩崎 政江氏  
東京未来大学教授 高梨 桂子氏

● 研修Ⅲ 「新システムの動向と幼保一体  
化の行方」～私立幼稚園の可  
能性と今後の課題から

講師 遊育代表取締役兼発行人  
吉田 正幸氏

● 研修Ⅳ 「私立幼稚園への支援状況」

～各県の私立幼稚園振興政策  
現状を報告し合い今後の振興  
対策を模索する～

担当 各県私学行政担当者  
以上

Xビデ  
オ

ように、  
関東地区  
の代表者が一堂  
に会し、各県私  
学行政担当者を  
交えて、今後の  
私立幼稚園の振  
興対策について  
協議した。



設置者・園長研修会

期日 平成二十二年十一月十六日(火)

会場 二荒山会館(鶴の間)

参加人数 百二十七名

講師 栃幼連経営研究副委員長

荒居 養雄氏

● 研修会② 「学校管理運営の諸問題」に  
ついて

栃木県経営管理部文書学事課副主幹  
村上 順一氏

● 研修会③ 「適正な労務管理」について  
栃木労務管理事務所 伊藤 保和氏

参加者が百  
二十七名とい  
う事からも読  
み取れるように、関心  
の高い研修会が盛りだ  
くさんの内容で実施さ  
れた。研修会①では、  
学校評価の意義、経緯、  
ねらい等をふまえなが  
ら具体的な評価表まで  
を提示していただい  
た。研修会②では学校  
法人の運営管理、幼稚  
園の運営管理ならびに  
各種規定の整備を中心  
に説明があり、特に理  
事会、評議委員会につ  
いては必要に応じて適  
正に開催するよう指  
導いただいた。研修会  
③ではパート職員の待  
遇、有給休暇、変形労働時間制など多岐  
にわたる具体的な事例に基づき説明して  
いただき、有意義な研修となった。



栃幼連理事研修会

全千葉県私立幼稚園連合会との意見交換会

期 日 平成二十二年十一月二十五日(木)  
 会 場 一荒山会館(鶴の間)  
 参加人数 全千私幼連 二十二名  
 栃幼連 二十一名

テーマ

- ①各団体の近況と課題について
- ②幼保一体化構想についての意見交換
- ③若手リーダーの育成について
- ④その他

ヒトロ

全千私幼連では、一〜二年に一度、先進的な取り組みをしている園の視察見学、その地区の幼稚園団体との交流を行っているという。今年度は栃木県を視察先に選んでいただいた。

両団体の参加者が、①から④のテーマに沿って活発に意見交換を行った。喫緊の話題である幼保一体化について、また団体の明日を担う若手をどう育てていくかについての関心が高く、時間が足りないほどであった。



地区だより

日光地区

去る八月十八日(水)、日光地区幼稚園連合会主催による教職員を対象とした全体研修会が「ブライダルパレスあさの」に於いて開催されました。

講師には、管理栄養士で料理研究家の村上祥子先生をお迎えし、「日本型食生活で食べ力をつける」〜ちゃんと食べてちゃんと生きる〜というテーマで御講演を頂きました。



まず、子どもの食生活について「三対一食事法」という食物摂取のバランスが示されました。これは、それぞれのバランスを三(ご飯・パン・麺類などの主食)、一(肉・魚・卵・大豆等のタンパク質)、二(野菜・海藻・果物等)とするもので、現状では大人、子どもを問わず主食の割合が少なすぎるとのご指摘でした。

また、タンパク質の二倍の野菜を採ることが理想でありながら、これも不足しているとのことでした。脳梗塞、心筋梗塞等の予防のためにも

野菜を充分に摂取することが肝要であるようです。

普段何気なく食べている食事ですが、子どもの頃からその内容に気を配り、ただ欲するままに食べてしまうことのないよう、家族全員で考え、試みるのも大切なことではないでしょうか。

幼稚園教諭には、園児の健康管理に留意し、成長を支援する重要な責務があり、その大前提となるのは、自らの健康管理であるはずですが、それらを自分に問い直す意味でも、たいへん意義深い研修会でした。

(日光地区会長 根村 隆宣)

塩谷地区

塩谷地区は、三市一町(矢板市、さくら市、那須烏山市、高根沢町)の十園で構成されています。

塩谷地区における活動は、年一回の研修旅行、教員研修会、五年勤続教職員表彰式、毎月の定例園長会などです。地区全体の事業としましては、幼稚園子育て情報誌を発行し、各園の情報や遊び場情報、電話相談などの情報を発信しています。研修旅行では、県内外の幼稚園を見学し勉強しつつも、懇親会を開いたり親睦を深めています。

教員研修会では、先生方のレベルアップを目的に、様々なテーマで講師をお招きして行っております。今

年度の研修は、「幼児の絵をどのように支援したらよいか」というテーマで行われました。一、幼児の絵はなぜ必要か二、原点に戻って幼児の絵の特徴とは三、幼児の絵の指導の基本 四、幼児が意欲的に取り組む題材例 五、幼児の支援活動での留意事項という講演内容で、参加した先生方にとって充実した研修の機会となりました。



園長会は各園が持ち回りで会場となります。時間は一時間半を目安に和やかな雰囲気の中、様々な議題の協議、情報交換や交流を行っています。

七月十三日には、親和幼稚園で園長会を行いました。今回の主な議題は次の通りです。

- 一、報告事項(栃幼連理事会より)
- 一、平成二十二年教育者表彰について
- 一、平成二十三年度春の叙勲及び藍綬褒章について
- 一、子育て情報誌について

PTAの活動としましては、通常総会、役員会を開催しています。また、保護者による園対抗のソフトボール大会やバレーボール大会が行われ、保護者同士の交流なども行われています。

(塩谷地区会長 斎藤 幸成)

## 23年度私立幼稚園関係県予算要望書

団体名：社団法人栃木県幼稚園連合会  
代表者名：理事長 石嶋 昇

要望事項等	継・新 の別	要 望 事 項	
		現 行	要 望 額
<p><b>1. 予算に関する要望</b></p> <p>(1) 運営費補助金(学校法人立) 幼稚園教育本来の充実こそ、保護者が何よりも願っていることです。優れた教員の確保は、教育にとって何よりも重要なことですが、財政的な制約があり、優秀な人材の確保は大きな課題であります。 以上ご理解いただき、国に準じて増額を確保し、経常費補助率が「私立学校振興助成法」に定められている補助金の上限である50%に早急に達しますよう(現在、本県は36%)要望します。</p>	継続	総額 5,754,126千円 園児一人当たり 178,500円  国庫補助 22,587円 地方交付税 146,800円 県補助 9,113円	総額 6,067,892千円 園児一人当たり 201,638円×30,093人  平成23年度要望 40.7% (目標は50%)
<p>(2) 教材費等補助金(宗教法人立・個人立) 102条園は、ここ10年で11園が休廃園に追い込まれ、厳しい環境にあります。地域の幼稚園教育の存続を図るため、現在の水準を確保するとともに学校法人立園運営費補助金の1/2に達するよう、早急な補助金の増額を要望します。</p>	継続	総額 48,563千円 園児一人当たり 39,100円	総額 50,346千円 園児一人当たり 55,816円×902人
<p>(3) 少子化対策保育料減免事業の創設 少子・高齢化や人口減少時代の到来のなかで、平均で2.03人の子どもを持つ幼稚園の保護者は、約7割が3人以上の子育てに意欲を持っています。そこで少子化対策に大きな影響力を持つであろう教育費負担軽減のため、第3子以降(単独入園)の保育料減免事業の創設を要望します。</p>	新規		総額 74,044千円 (保育料の1/2減免)
<p><b>2. 政策に関する要望</b></p> <p>(1) 少子化、核家族化、情報化の進展など、社会構造の変化の中で、幼児を取り巻く環境は急激に変化し、幼児の健全な成長に大きな影響を与えています。こうした状況の中で幼稚園教育の果たす役割は、従来の枠を越えて質的にも量的にも増大しており、幼稚園教育の充実は今や緊急の課題であります。本県の幼稚園教育は約98%(全国一位/私立幼稚園児の割合)を私立幼稚園が担っており、私立幼稚園の教育内容の充実と経営基盤の確立、そして若年父母の経済的負担を軽減する子育て支援策は、私立幼稚園教育の根幹をなすものであります。そこで、少子化対策推進の観点から、第3子以降に対し、同時に園でなくとも補助対象となるよう、現行制度の拡充を強く要望します。</p> <p>(2) 健全で心豊かな子どもの育成を推進するため、未就園児親子教室等の子育て支援策を通し、より多くの幼稚園が地域の子育ての拠点として充実できるよう、さらなる財政的援助を要望します。</p> <p>(3) 社会の変化に伴い、預かり保育は子どもの成長の場を確保する上で大変重要であります。幼稚園が行う多様なニーズに対応した預かり保育に関する一層の支援を要望します。</p> <p>(4) 102条園(宗教法人立・個人立)の幼稚園子育てランド事業、わんぱく保育推進事業については、今まで通り県単補助金の継続を要望します。</p> <p>(5) 特別な支援を必要とする園児が増加しています。1名の在園から同額の助成を要望します。</p>		<p style="text-align: center;"><b>概 要</b></p> <p>1、安心して子育てができる施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教育費の負担軽減                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・満3歳児教育の条件整備</li> <li>・第3子以降(単独入園)に対する保育料減免</li> </ul> </li> <li>②女性の社会進出等に対応した預かり保育の条件整備</li> <li>③認定こども園の促進</li> </ul> <p>2、地域に根ざし、開かれた幼稚園を支援する施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て支援事業の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「遊び場」としての開放事業</li> <li>・未就園児親子教室事業</li> <li>・放課後児童クラブ事業</li> <li>・地域の子育て支援に関する情報提供、紹介事業</li> <li>・幼児教育に関する各種講座開催事業</li> </ul> </li> </ul> <p>3、ゆとりある教育の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の資質向上</li> <li>②チーム保育の条件整備</li> <li>③しなやかに生きる力・心を育む教育の推進</li> <li>④施設整備の充実</li> <li>⑤小・中・高を対象にした交流</li> <li>⑥幼・保・小連携の推進</li> <li>⑦特別支援教育の充実</li> </ul>	

### ●23年度予算要望書について

昨年度は「とちぎ未来開拓プログラム」による県財政改善案が示されましたが、内外のご理解とご支援により運営費の県単補助金が堅持されました。

しかしながら、県財政は予断を許さない状況が続いており、要望活動にも引き続きの困難が予想されています。

栃幼連としましては、これまで同様、栃木県における幼児教育の果たす役割や重要性を訴え、特に「特別支援教育の充実」「少子化対策保育料減免事業」について深いご理解をいただけるよう要望しております。

今後とも会員の皆様をはじめ、関係各機関のご支援・ご協力をいただきながら活動を進めてまいります。よろしくお願いたします。

振興委員長 磯 行雄



昨年度、大変ご好評をいただきました「スキルアップセミナー」を本年度も開催しました。

三つの講座を開催しましたので、それぞれについて、講話内容や活動の様子を紹介します。

**保育に生かせる  
表現運動の実技研修**  
日時 八月二十日(金)  
講話・実技  
「体力向上につながる楽しい運動遊び」

ふたば幼稚園のご協力を得て、ふたば幼稚園を会場に開催しました。四十五名の幼稚園・保育所の先生方が受講しました。

午前中は、ふたば幼稚園の遊びの中で培っている体力向上の取組と、本県の小学生の体力の実態の説明を聞き、幼児期に必要な経験や望ましい活動などを考えました。

午後は、遊具を手作りしたり、福島学院大学の広瀬仁美先生を講師に迎え、実際に体を動かしながら幼児期の運動発達の特徴を学んだりして、保育に生かせる活動を体験しました。

「幼児期は、運動発達のゴールデンエイジといわれ、人間が一生の中で

行う基本的な運動のほとんどを身に付ける時期なので、幼児期に必要なのは、特別なスポーツではなく、様々な遊びである」というお話に、先生方は、深くうなずいていました。



自分で手作りした遊具を早速、保育で使いたいという意欲的な意見も多く聞かれ、先生方の熱心がうかがえしました。

「子どもの遊びの中から興味・関心を探り遊具を作っているからこそ、遊びの工夫やかかわり合いが生まれるのだということを感じた。」「様々な感覚や筋肉を使う遊びがわかったので、子どもたちと一緒に遊び、いつの間にか体力がつくようにしていきたい。」などの感想をいただきました。

会場を提供してくださったふたば幼稚園の皆様、ありがとうございました。

**保育に生かせる絵画の実技研修**  
日時 八月二十六日(木)  
講話・実技  
「描画の発達過程と様々な素材を使った表現活動」

四十二名の幼稚園・保育所の先生方が受講しました。

昨年度に続き、幼児教育センター青木正子顧問を講師に、子どもの絵の特徴と、絵画表現の技法を学びました。



午後は、様々な技法で表現した作品を遊びにどのように取り入れるか、子どもの発達を考慮しながら、グループごとにねらい・内容を考え発表しました。

グループでの話し合いや他の班の発表が刺激となって、自分の保育の幅を広げることができたという感想をいただきました。

実技を通して、保育のねらいや幼児の発達を学んでいただけたと思います。

**保育に生かせる  
食育に関する実技研修**  
日時 九月九日(木)  
講話・実技  
「幼稚園・保育所でできる簡単クッキング〜自分で育てた野菜を使って〜」

二十一名の幼稚園・保育所の先生方が受講しました。

昨年度に続き、「とちぎアグリプラザ」で実施しました。午前中は、「栃木の地産地消」の講話と、女性農業士会の方々の手作りのすくろくとカルタを体験しました。

午後は、那須町在住のフードコーディネーター橋本由紀子先生による簡単クッキングの実技研修でした。

子どもの目の前にある食材が、畑や農場などで育てている風景とつながるような言葉かけをしてほしいという橋本先生のお話が印象的でした。



「一つ一つの食材について話をしたり、子どもが感じたことを受け止めて話題にしたりすることが大切だと知った。」

「とちぎアグリプラザには、食について学べる教材がたくさんあることを知って、保育に使ってみたいと思った。」などの感想をいただきました。

食に関する教材として、大型絵本、エプロンシアター、カルタなどを幼児教育センターでも貸し出しています。

ぜひ、ご利用ください。なお、ガイドブックにもリスト一覧を掲載しています。

【食に関する教材の問い合わせ先】  
☎028(6605)7215

★来年度も、先生方が楽しみながら学べる体験型の研修を企画していきますので、どうぞご参加ください。

(文責 永井 弘美)

# 学事だより

県文書学事課

**幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金変更交付申請書の提出について**

本年度入園した満三歳児分等の変更交付申請書の提出については、運営費補助金、教材費等補助金ともに二月上旬を予定しています。詳細については、別途文書で通知しますので、期限内の提出をお願いします。

## 子育てランド事業における実施記録について

今年度の学校基礎調査で記述しましたが、子育てランド事業を実施している幼稚園において、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に提出いただく予定ですので、実施園においては必ず記録をとっていただくようお願いいたします。

## 冬季における園児の健康管理について

インフルエンザ等の疾病予防については、日頃から御努力いただいているところですが、冬季においては、集団発生が予想されます。

学校保健安全法では、指定された感染症について、「出席停止（感染症にか

かった園児等に対し、一定期間登園を停止）及び「臨時休業」の措置を講じることができると定められています。

出席停止の措置を講じるには、園医その他の医師の意見を聞いた上で園長が期間を定め、当該園児の保護者に指示することとなります。

また、臨時休業の実施については、特に基準はありませんが、欠席率、罹患患者数や、地域での流行状況を考慮の上、園長が判断することとなります。

なお、インフルエンザ発生に伴う学級閉鎖や休園を行った場合は、所管の健康福祉センター（保健所）に御報告くださるようお願いいたします。

## 学校評価について

学校評価については、学校教育法及び学校教育法施行規則に次の事項が定められています。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること。
- ・保護者などの学校関係者による評価（学校関係者評価）を行い、その結果を公表するよう努めること。
- ・自己評価・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること。

文部科学省のホームページに掲載されている「幼稚園における学校評価ガイドライン」を参考に適切に実施願います。

文部科学省ホームページ  
<http://www.mext.go.jp>

## 平成二十三年

### 一月～三月までの事業計画

1月6日	※10年経験者研修(保育専門研修)
1月14日	設置者・園長研修会
1月20、21日	全日私幼連全国研究研修担当者会議
1月22日	資質向上選抜養成講座VI
1月30、31日	青年部合宿研修会
2月5日	※保育を語る会
2月22、23日	青年部県外視察研修会
3月25日	平成23年度 予算総会
※は幼児教育センター事業	

## 慶事

- 栃木市 國學院大學栃木学園 (栃木二杉幼稚園)  
創立50周年記念式典  
平成二十二年十月九日
- 茂木町 茂木愛泉幼稚園  
創立30周年記念式典  
平成二十二年十一月六日
- 宇都宮市 陽の丘幼稚園  
創立40周年記念式典  
平成二十二年十一月七日
- 宇都宮市 山王幼稚園  
創立40周年記念式典  
平成二十二年十一月二十日

## \*総会予告\*

平成二十二年年度  
**栃幼連通常総会**  
(二十三年度予算総会)  
平成二十三年三月二十五日(金)  
会場：二荒山会館

## 編集後記

「ピカピカの栃木県」は年長児と保護者で公園の清掃に行ってきた。大きなゴミはあまり無かったが、歩きながらよく見ると植え込みの下などに小さなゴミが結構あった。だれも捨てなければ拾う必要はないのだ。子どもたちには、少なくとも公共の場では「ゴミは捨てない」ということを習慣として身につけさせたい。それには保護者が日常生活の中で常時手本を示し、「ゴミは絶対に捨てない、逆にゴミを拾って見せるぐらいのことが必要だ」と思う。人間の精神構造には「良いことをしたら気持ちが良い」というロジックが組み込まれているということを何かで読んだことがある。勉強やスポーツも大切だが、それ以前に基本的な大切なことがある。保護者にも協力してもらい幼児のうちから教育することが必要だと改めて思った。

昨冬は新型インフルエンザ騒ぎで大変だった。今冬も依然として厳しい寒さが続いている。皆さん、どうぞご自愛ください。

(広報委員 桑門 秀光)